

再立ち入りに関するガイダンス、および 一時的な立ち入りに関する危険勧告



山火事の被災したマウイ島にお住まいの方へ

ハワイ保健省（Hawai'i Department of Health, DOH）として、山火事の被災した地域に戻りたいという地域の皆様のご希望を認識しています。省では、住宅地への立ち入りの機会が提供されることで、閉鎖を可能にして復興を開始するのに役立つかもしれないと考えています。ただし、当然のことながら、住宅地に立ち入らないことを選択する方もいらっしゃる考えられます。被災地に立ち入るかどうかはご自身の判断にお任せします。

被災地に行く前に知っておくべきこと

- 被災した地域は、不安定な構造、鋭利な金属物体、および潜在的に有毒となる物質を含む灰を含んだ、危険な場所である可能性があります。ただし、適切な保護具を正しく着用および取り外しすることで、被災した場所に安全に立ち入ることは可能です。
- 子どもや妊娠中の人は、がれきの危険のリスクが高いため、被災したエリアに入ったり、清掃を手伝ったりしないでください。
- 着替えや靴を余分に持参して、立ち入り後はすぐに着替えることをお勧めします。
- 立ち入り後に使用済みの個人用保護具（Personal Protective Equipment, PPE）や衣類を入れるためのごみ袋を持参してください。
- 非常に暑くなる可能性がありますので、飲用水を持参してください。
- ティッシュや小さなタオルを持参して、涙や汗を拭き取りましょう。

灰や有害物質への接触を抑える

破片や灰には、鉛、アスベスト、ヒ素、多環芳香族炭化水素（Polycyclic Aromatic Hydrocarbons, PAHs）、ダイオキシンなどの有害物質が含まれる場合があります。ほこり、ちり、すすは、揺らすと空中に浮遊する可能性があり、吸入やこれらの危険に接触するリスクを引き起こします。これらの毒素に接触すると、癌、呼吸器系の問題その他の健康上の問題を引き起こす可能性があります。

適切なPPEで身を守る

成人は、灰に接触することを避けるために、フェイスマスク、ゴーグル、作業用手袋、全身つなぎ服、靴下、靴（使い捨ての靴カバーも含みます）などのPPEを着用する必要があります。布製のマスクでは、灰から身を守ることはできません。DOHでは、その代わりに、ぴったりフィットする保護マスク、またはマスクの着用を推奨しています - マスクにNIOSHまたはN95と印字されているものを探してください。マスクは、正しくぴったりと装着しなければ効果がないことを覚えておいてください。

PPEは、被災した地域を一時的に立ち入る間の一度限りの（使い捨てによる）使用が目的のものです。使用後は、PPEをごみ袋に入れて通常のゴミと一緒に廃棄します。着用したPPEの内容物を廃棄した後は、手を洗うことを強くお勧めします。

危険な状況に遭遇したり、有毒物質にさらされたりする可能性があることを忘れないでください。保護具を着用し、被爆時間を最小限にしてください。

質問がありますか？

ハワイ州マウイ災害救援コールセンター（「State of Hawai'i Maui Disaster Relief Call Center」）：電話 808-727-1550
受付時間：毎日、午前6時～午後10時まで

地元当局の指示に従ってください。

再立ち入りに関するガイダンスパンフレット（一般）

更新日：2023年9月21日

Japanese

Re-entry Guidance Flyer (General) - 09/21/2023

1ページ目



免責事項：

このページの推奨事項は、性質上、情報提供を目的とした一般的な情報となっています。ここに記載されている内容は、医師による専門的な指示の代用となるものではありません。ハワイ保健省の目標は、現在の環境条件に基づいて、最大数の人々を支援できる情報を提供することにあります。ただし、個別の指示や既往症については、資格のある医師や医療従事者にお問い合わせください。立ち入りは自己責任となります。

再立ち入りに関するガイダンス、および 一時的な立ち入りに関する危険勧告



山火事の被災したマウイ島にお住まいの方へ

熱性ストレスの症状

頭痛、めまい、吐き気、速い心拍数、激しい発汗、筋肉のけいれんなど、熱に関連する病気の症状に注意してください。PPEを着用しているときは熱中症リスクが高まるため、頻繁に休憩を取り、しっかりと水分を補給してください。水分補給をし、頻繁に休憩を取り、可能であれば、日陰を探し求めることを忘れないでください。熱中症の症状がある場合は、被災地への立ち入りを中止して医師の診察を受けてください。

精神面への影響に注意

家、持ち物、ビジネス、そして愛する人失った被災地に再び立ち入ることは、感情的に難しい場合があります。深い悲しみ、恐れ、怒り、不安、パニックなどの苦痛を感じる場合があります。これらの感情は、その瞬間、またはその後が生じる可能性があります。これらの症状により、精神的に圧倒される、気が遠くなるような場合は、その地域またはラハイナ総合保健センター（「Lāhainā Comprehensive Health Center」）に常駐している行動医療の専門家に週7日、午前9時から午後4時までの間に808-495-5113に電話して助けを求めてください。受付時間外のメンタルヘルスサポートについては、ハワイケアズ（Hawai'i CARES）：フリーダイヤル（1-800-753-6879）に電話するか、電話/テキストを988に送信してください。

灰の清掃について

灰を雨水管に流さないでください。灰やほこりを空気中にまき散らすような掃除機やブロワーを使用しないでください。被災した地域にいる間は、何も食べないでください。ただし、頻繁に休憩を取るようし、たくさん水を飲むことを忘れないでください。車の外で休憩を取ると、車内が汚染する可能性があります。飲料水のボトルは、一緒に飲み込まないよう、灰やほこりから遠ざけてください。

破片を除去しない

被災した地域で生じた危険物の除去は、当局によって調整が実施されます。

樹木、電線、その他の危険物に注意してください。

火災により、樹木が危険な状態になっている可能性があります。停電が復旧していない地域でも、倒れた電線は避けてください。不安定な建物や構造物は、倒壊などにより、けがをする可能性があります。釘（くぎ）などの鋭利な金属片は靴を貫通してけがにつながる可能性があります。安全でない場所を確認した場合は、その場を離れ、危険（物）について当局に報告してください。

被災地への立ち入り後

被災地への立ち入りが終わったら、すべての防護服（マスク、つなぎ服、ゴーグル、手袋、ブーツ）をごみ袋に廃棄し、通常の自宅ゴミと一緒に廃棄してください。

当局では、被災地への立ち入り後、すぐに服装や靴を履き替えることを推奨しています。また、DOHでは、これらの洗濯物を、通常の洗濯物とは別に洗濯することも推奨しています。また、慎重を要する人々（ケイキ（ハワイ語で「子ども」の意味）、妊娠中の人、喘息や、慢性閉塞性肺疾患（Chronic obstructive pulmonary disease, COPD）患者、クプナ（ハワイ語で「お年寄り」の意味）などの）と接触する場合の最善の行動は、事前にシャワーを浴び、髪も洗うことです。体調不良や、新たな健康症状が出た場合は、医師の診断を受けてください。

医療および行動医療サービスについては、こちらにお問い合わせください：
ラハイナ総合保健センター（「Lāhainā Comprehensive Health Center」）：電話 808-495-5113
受付時間は週7日、午前9時～午後4時まで | health.hawaii.gov/mauiwildfires

地元当局の指示に従ってください。

再立ち入りに関するガイダンスパンフレット（一般）

更新日：2023年9月21日

Japanese

2ページ目

Re-entry Guidance Flyer (General) - 09/21/2023

